

■大学院医学院

理念・目標

理念

世界をリードする先進的医学研究を推進し、高い倫理観と豊かな人間性を有する医学研究者・医療人を育てることにより、人類の健康と福祉に貢献する。

教育目標と行動目標

■教育目標

医学・生命科学に関する高度な知識と研究能力を備え、社会の要請に応える高い見識を備えた人材を育成する。

■行動目標

1. 高度に専門的な医学・生命科学の知識と研究能力を備えることで、疑問や仮説を科学的に深く追究する探究心を育む。
2. 世界をリードする先端医学研究を国際的に推進する能力を習得する。
3. 健康・安全に関する地域社会、国際社会の多様かつ広範な要請に応える能力と見識を培う。
4. 倫理性豊かな人材として活躍するために、命の尊厳を敬う心を涵養する。

研究目標と行動目標

■研究目標

基幹総合大学として国際レベルの研究を推進し、知のフロンティアを切り拓き人類の福祉に貢献する。

■行動目標

1. 独創的、先駆的基礎研究の発展に寄与する。
2. 社会に役立つ実学として臨床医学、社会医学を推進する。
3. 基礎から臨床までの橋渡し研究を遂行する。
4. 総合大学の特色を生かし、学内関連部局、国内外の大学・研究機関、産業界と連携しつつ、世界レベルの医学研究を推進する。

入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

医学院では次のような学生を求めています

1. 生命現象の解明、疾病の克服、人類の健康の増進に向けて真摯に研究に取り組むことのできる人
2. 知的好奇心に富み、論理的な分析力、粘り強い行動力や協調性を有し、医学領域各分野において国際的なリーダーとして活躍できる人
3. 入学前に外国語（英語）の基礎的読解力と作文能力を身につけている人

医学院の入学者選抜の基本方針は次のとおりです

一般選抜試験では、学力試験および出願書類等を総合して判定します。

外国人留学生特別選抜試験では、口述試験および出願書類を総合して判定します。

〈評価方法と評価比重および求める学生像と評価方法の関係性〉
(修士)

入試区分	評価方法	評価比重	上記1に係る事項	上記2に係る事項	上記3に係る事項
一般選抜	課題論文	○	✓	✓	
	専門科目試験	○	✓	✓	
	外国語試験	○			✓
	出願書類	○	✓	✓	
一般選抜 (公衆衛生学コース 2年コース)	課題論文	○	✓	✓	
	専門科目試験	○	✓	✓	
	外国語試験	○			✓
	出願書類	○	✓	✓	
一般選抜 (公衆衛生学コース 1年コース)	課題論文	○	✓	✓	
	専門科目試験	○	✓	✓	
	外国語試験	○			✓
	口述試験	○	✓	✓	
外国人留学生 特別選抜	口述試験	○	✓	✓	✓
	出願書類	○	✓	✓	

(博士)

入試区分	評価方法	評価比重	上記1に係る事項	上記2に係る事項	上記3に係る事項
一般選抜	専門科目試験	○	✓	✓	
	外国語試験	○			✓
	出願書類	○	✓	✓	
外国人留学生 特別選抜	口述試験	○	✓	✓	✓
	出願書類	○	✓	✓	✓

○は特に重視する要素

○は重視する要素

✓は各評価方法において評価する求める学生像

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

医学院では、本学の四つの基本理念（フロンティア精神、国際性の涵養、全人教育、実学の重視）の下、医学・生命科学に関する高い倫理観および高度な専門的知識と研究および教育能力を備えた人材の育成、ならびに健康および安全に対する多様かつ広範な地域社会または国際社会の要請に応えることのできる広くかつ高い見識を備えた人材の育成をはかることを教育目標としています。

医学院では、この目標とする人材像に求められる具体的な能力（学位授与水準）を修士課程と博士課程において定め、当該能力を身に付け、かつ、所定の単位を修得し、学位論文の審査および試験に合格した者に修士または博士の学位を授与します。

医科学専攻修士課程

●修士（医科学）を授与する者

医学・生命科学に関連する研究の背景を理解し、生物学的重要性のある研究テーマや検証すべき仮説を立証するとともに、その妥当性を検証し得られた（実験・調査）結果を適切に分析することにより、新たなテーマや仮説を立案して持続的に医学・生命科学研究領域の発展に寄与する能力を身に付け、かつ、所定の単位を修得し、学位論文の審査および試験に合格した者に「修士（医科学）」の学位を授与します。

●修士（公衆衛生学）を授与する者

社会全体および人々の健康と生活・安全に必要な仕組みを理解し、公衆衛生学上又は予防医学上の諸課題の解決に必要な情報の収集・分析により、健康の維持増進に向けた対策を立案するとともに、これを円滑に実施し、得られた結果を適切に評価することにより、新たな課題を次の対策につなげて持続的に公衆衛生学領域の発展に寄与する能力を身に付け、かつ所定の単位を修得し、学位論文又は特定の課題についての研究の成果の審査および試験に合格した者に「修士（公衆衛生学）」の学位を授与します。

医科学専攻修士課程の学位授与水準

医科学専攻では、医学院の教育目標に基づき、医学・生命科学領域の研究者や教育者として、医療関連分野の高度専門職業人として、あるいは保健医療や保健政策マネジメントなどの専門家として、それぞれの領域において貢献をなす活動を将来独自で行えるための基礎的知識と基礎的技能を有した人材の育成を目標としており、次の能力を持つと認められる者に対し、修士の学位を授与します。

- (1) 自己の研究に関連する先行知識と知見を理解するとともに、これを適切かつ正当に評価し、自らの表現において論述することができる。
- (2) 研究の立案、科学的データの収集と解析、科学的データに基づいた論理的思考などを行う能力を備え、すべての実験や観察は誤差を含むことを理解し、結果の信頼性・再現性に対する科学者としての基本的態度を十分に身に付けている。
- (3) 学会等の公的な研究発表の場で、自己の研究成果を発表し議論する能力・技能を備えている。
- (4) 学術雑誌等に掲載される程度の内容と形式を備えた論文を執筆できる力を備えている。

医学専攻博士課程

医学専攻博士課程の学位授与水準

医学専攻では、医学に関連する研究の背景や状況を的確に把握し、学術的かつ国際的に重要性のある研究テーマや検証すべき仮説を立案するとともに、その妥当性を検証することにより、新たなテーマや仮説を立案して持続的に基盤医学、臨床医学又は社会医学研究領域の発展に寄与する以下に掲げる能力を身に付け、かつ所定の単位を修得し、学位論文の審査および試験に合格した者に「博士（医学）」の学位を授与します。

- (1) 自己の研究に関連する先行知識と知見を理解するとともに、これを適切かつ正当に評価し、自らの表現において論述することができる。
- (2) 研究の立案、科学的データの収集と解析、科学的データに基づいた論理的思考などを行う能力を備え、すべての実験や観察は誤差を含むことを理解し、結果の信頼性・再現性に対する科学者としての基本的態度を十分に身に付けている。
- (3) 国内外を問わず学会等の公的な研究発表の場で、自己の研究成果を発表し議論する能力・技能を備えている。
- (4) 学術雑誌または独自の著作等において、当該研究分野または社会に有意義な貢献をする論文を執筆する能力・技能を備えている。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

医学院は、「高い倫理観と豊かな人間性の涵養と高度な医学知識および技術の修得」を教育理念とし、これまでの学問領域の枠を越え、互いに関連する分野の基礎的知識・技術の修得をはかる融合教育を展開します。また、多様化した社会のニーズに対応した人材を育成するために、学修課題を複数の科目を通して体系的に履修するコースワークを導入し、学生は目的に応じた最善のコースを選択履修します。すなわち、医学院機能における〔目的の明確化〕と〔教育の実質化〕を柱とした新時代の大学院教育を展開します。

医科学専攻修士課程の教育課程編成・実施の方針

医科学専攻では、人材育成の目的に応じた以下の3つの教育（履修）コースを設定し、本人の希望をもとに入学時からいずれかのコースに所属します。

1. 医科学コース

医学・生命科学領域の幅広い知識を持って活躍できる高度専門職業人の育成を目的とする。

2. 公衆衛生学コース（2年コース）

社会全体ならびに人々の健康と生活、安全の維持・向上のために、公衆衛生上の諸課題に対し、幅広い知識と高い技能をもって活躍する人材の育成を目的とする。

3. 公衆衛生学コース（1年コース）

医学的な素養と実務経験を有する医師・歯科医師・薬剤師・保健師などを対象として、社会全体ならびに人々の健康と生活、安全の維持・向上のために、公衆衛生上の諸課題に対し、幅広い知識と高い技能をもって活躍する人材の育成を目的とする。

履修する科目として、「共通コア科目」、「必修科目Ⅰ」、「必修科目Ⅱ」、「選択科目」を開講します。

共通コア科目は、大学院教育において基本となる素養の涵養を目的とした科目であり、全てのコースにおいて必修とします。この科目では、医学研究に関する基本的かつ体系的知識を提供する「基本医学研究概論」をはじめ、研究計画の立案、疫学や生物統計の基礎などを学ぶ「基本実験・研究計画法」、北海道大学の教育理念のひとつである全人教育を踏まえ、医学に携わる者として生命倫理観を涵養する「医倫理学序論」、基礎研究で得られた成果を臨床現場で新しい医療技術・医薬品として確立することを目的とした橋渡し研究の理解を促す「トランスレーショナルリサーチ概論」を開講します。

必修科目Ⅰは、各コースの専門性に特化した科目であり、それぞれのコースの教育目標に対応した科目を開講します。

必修科目Ⅱでは、研究データの統計的解析、プレゼンテーション技法の修得等を目的とした科目を開講します。更に、学生が入学後に配属される教室の研究指導教員が科目責任者となり、修士論文又は特定課題の研究成果の作成に必要な能力の涵養を目的とした実習を開講します。

選択科目では、コースを越えた幅広い視野や専門分野の枠を越えた専門的知識の修得を目的とした科目を開講します。

なお、「公衆衛生学コース」では、米国公衆衛生大学院協会（APHA）の定める認定基準で必須とされる5領域（疫学、生物統計学、社会行動科学、保健医療管理学、環境保健学）の教育を行います。医学・理工学・人文社会科学を専門分野とする教員による学際的な教育体制により、公衆衛生学の専門家として求められる最低限の知識・能力の修得を目的とした基礎科目を必修科目Ⅰで開講するとともに、多様かつ広範な公衆衛生上の諸課題に関する専門的知識、情報収集能力、適格な判断力の養成を目的とした応用科目を選択科目で開講します。

医学専攻博士課程の教育課程編成・実施の方針

医学専攻では、人材育成の目的に応じた以下の三つの教育（履修）コースを設定し、本人の希望をもとに入学時からいずれかのコースに所属します。

1. **基盤医学コース** 医学・生命科学領域の研究者および教育者の育成を目的とする。

2. **臨床医学コース** 優れた臨床技術と研究能力を兼ね備えた臨床医等の育成を目的とする。

3. **社会医学コース** 地域社会や国際的なレベルの健康・安全へのニーズに応える事のできる人材を育成することを目的とする。

履修する科目には、「必修科目（共通コア科目）」、「必修科目」、「選択科目」を開講します。

共通コア科目は、医学院の大学院教育において、基本となる素養を涵養することを目的とする科目であり、すべてのコースにおいて必修科目として開講されます。医学研究に関する基本的かつ体系的知識を提供する医学研究概論（知的財産学など）をはじめ、実験・研究計画法は基本統計学などを学ぶものです。公開発表演習は、学位論文公開発表の場にお

いて、論文の口頭発表や質疑応答の技術の修得を、研究発表技法Ⅰ・Ⅱは、英語による口頭発表や論文作成の技術の修得を目的として開講されます。また、北海道大学の教育理念のひとつである「全人教育」を踏まえ、医学に携わるものとしての生命倫理観を涵養する医倫理学、基礎研究で得られた成果を臨床現場で新しい医療技術・医薬品として確立することを目的とした橋渡し研究の理解を促す「トランスレーショナルリサーチ概論」を開講します。なお、医学院修士課程を修了し、博士課程へ進学した者は共通コア科目4科目（医学研究概論、実験・研究計画法、医倫理学、トランスレーショナルリサーチ概論）については既修得単位として認定されます。

3コースから1コースを選択する必修科目は、コースに特化した科目で、それぞれのコースの教育目的に対応した科目として開講されます。当該専門研究分野の深い知識のみならず、当該専門分野に限定されない、幅広い知識の修得を目的としています。さらに、学位論文の作成に関連する研究活動を単位として認定し、その指導を強化するものです。

選択科目は単位選択の自由度を確保するもので、コースを越えた幅広い視野や当該専門分野の枠を越えた知識や技術の修得を目的として、開講されるものです。

学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー）

目的

(1) 医学院では「北海道大学アセスメント・ポリシー」に基づき、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）で示された教育目標への到達度を高めるために教学アセスメントを実施する。

実施体制

- (2) 医学院の教学アセスメント実施責任者は、学院長とする。
 (3) 医学院の教学アセスメントは、医学院教務委員会において実施する。

実施および分析

- (4) 医学院の教学アセスメントは、別に定めるアセスメント・チェックリストにより実施する。
 (5) 評価結果を参考とした教育改革の内容は、積極的に公表する。
 (6) 教学データの取り扱いについては、本学の関係規程等を遵守し、個人情報等の保護につとめる。

医学部医学科

理念・目標

理念

世界をリードする先進的医学研究を推進し、高い倫理観と豊かな人間性を有する医学研究者・医療人を育てることにより、人類の健康と福祉に貢献する。

教育目標と行動目標

教育目標

広範な医学知識、高い倫理観、豊かな人間性、国際的視野を備え、医学の進歩と医療の実践・発展に寄与する医師・医学研究者を養成する。

行動目標

1. 医師・医学研究者として活躍するための基礎をなす医学知識・技術を身につける。
2. 生涯にわたり自ら学ぶ習慣と態度を身につける。
3. 科学的な思考・判断能力と探究心に基づく創造性を養う。
4. 医師・医学研究者に要求される高い倫理観と豊かな人間性を培う。
5. 国際交流の重要性を理解し、それに必要な語学力、医学知識、教養を身につける。
6. 医療におけるチームワークの重要性とそこでの医師の役割を理解する。

入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

求める学生像

1. 知識・技能

強い学習意欲と多様な科目を履修していく基礎学力をもつ学生

2. 思考力・判断力・表現力

多様な事象に対し興味、理解力を持ち、共感とともに批判する能力をもつ学生

3. 主体性・多様性・協働性

積極性、堅実性とともに他者との協調性をもつ学生

4. 使命感

高い倫理観と強い責任感、そして敬虔な奉仕の精神を持ち、謙虚で高潔な使命感にあふれる学生

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

医学部では、本学の四つの基本理念（フロンティア精神、国際性の涵養、全人教育、実学の重視）の下、人類の健康増進に資するための体系的な教育を行うことにより、豊かな人間性、高い倫理観および国際的視野を備え、医学、医療又は生命科学の実践および発展に寄与する人材を養成することを教育目標としています。

医学部では、この目標とする人材像に求められる具体的な能力（学位授与水準）を学科毎に定め、当該能力を身につけ、かつ、所定の単位を修得した学生に学士の学位を授与します。

医学科の学位授与水準

医学科では、医学部の教育目標に基づき、①医を支える高い倫理観と豊かな人間性の陶冶、②高度な医学知識と技術の修得およびそれを維持する生涯学習を続ける態度・習慣の修得、③医療チームにおいて他の専門職と連携し、高度医療をおこなう協調性の修得、を教育理念として、次の能力をもつと認められる学生に対し、学士の学位を授与します。

- (1) 医学・医療を支える高い倫理感を身につけている。
- (2) 人間性を陶冶し患者のもつ悩み・不安・苦痛等に共感する態度を身につけている。
- (3) 社会の発展に貢献する使命感と責任感を身につけている。
- (4) 基礎的な医学知識・技術を身につけている。
- (5) 科学的妥当性・探求心・創造性を身につけている。
- (6) 生涯学習をつづける習慣・態度を身につけている。
- (7) 医療におけるチームワークの重要性と、その中の医師の役割を理解している。
- (8) 後輩に指導するとともに、自らも共に学ぶ態度を身につけている。
- (9) 異文化との交流や国際交流の重要性を理解している。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

医学部では、人類の健康増進に資するための体系的な教育を行うことにより、豊かな人間性、高い倫理観および国際的視野を備え、医学、医療又は生命科学の実践および発展に寄与する人材を養成する目的を達成するため、医学を学ぶ医学科と、看護学、放射線技術科学、検査技術科学、理学療法学、作業療法学を学ぶ保健学科を設置し、専門家および研究者を養成する基礎となる体系的な教育を展開します。これらの学科では、全学共通の「全学教育科目」と体系的に配置された「専門科目」をもって、学士課程（医学科では6年間、保健学科では4年間）における教育課程を編成します。専門科目では、学科毎にカリキュラム・ポリシーを定め、それぞれ育成する人材像に沿ったカリキュラムを編成し、実施します。

医学科の教育課程編成・実施の方針

医学部医学科では、学位授与水準に定めた能力を持つ人材を育成することを目標として、以下のとおりカリキュラムを編成し、実施します。医学科の学生には、1年次は「医学教養コース」として全学教育科目を開講し、2年次から卒業までの5年間は専門科目を開講します。専門科目では、「基礎医学コース」「臨床医学コース」「臨床実習コース」の3コースを順番にすべて履修することが卒業の要件です。

1. 医学教養コース（全学教育科目）

主に1年次学生を対象とする全学教育科目では、専攻する分野にかかわらず、本学の学生であれば当然身につけておかなければならない共通の素養として、高いコミュニケーション能力、人間や社会の多様性への理解、独創的かつ批判的に考える能力、社会的な責任と倫理を身につけることを目的として、カリキュラムを編成します。

具体的には「一般教育演習」、「総合科目」、「主題別科目」、「外国語科目」、「外国語演習」、「共通科目」に区分される教養科目（コアカリキュラム）を開講します。

また、専門科目を学ぶ心構え、基礎知識を身につけることができるように、基礎科目を開講します。

2. 基礎医学コース

2年次1学期から3年次1学期までの1年半のコースです。このコースでは、人体の正常な構造と機能を学ぶ科目（解剖学、組織学、画像解剖学、生理学、生化学）と、病気の発症・進展のメカニズムおよび治療の基本原則を学ぶ科目（微生物学、免疫学、病理学、基礎応用腫瘍学、薬理学）を開講します。さらに、集団、環境、制度、予防の観点から健康や病気を学ぶ（衛生学、公衆衛生学、法医学）科目と、医学を学ぶ基礎となる科目（医学英語演習）も開講します。

3. 臨床医学コース

3年次2学期から4年次1学期までの1年間のコースです。ここでは、様々な疾病を多面的に把握しつつ、患者さんをひとりの人間として理解し、診察や検査、診断、治療の基本を学びながら、内科学、外科学、専門医学などの臨床医学の基本を学ぶカリキュラムを編成し、実施します。また、1カ月間の医学研究演習では、研究室で実際の研究の方法や考え方を学び、基礎医学研究者や研究医となるための素養を磨く機会を提供します。

4年次1学期にコースが終わると、それまでに学んだ知識や技能を評価する全国共通の共用試験を実施します。「臨床実習コース」に進むには、これに合格しなければなりません。

4. 臨床実習コース

このコースでは2年間以上の長期間にわたり、臨床実習および関連する学習や試験等を実施します。

4年次2学期から5年次1学期までは、全ての診療科を少人数グループで回り、臨床の現場で医療スタッフとともに診療の一部に参加しながら、実際の診療の基礎を学ぶ実習です。この実習と並行して、臨床現場での課題や疑問を振り返りながら学ぶ臨床統合講義も開講します。社会医学の実習もこの時期に行います。

続く5年次2学期の6カ月間は、さらに少人数に分かれてスタッフの一員として全面的に診療に参加する形で、基本的な領域の診療科（コア科）を、大学病院や学外の医療機関で4週間ずつ学ぶ実習です。

6年次1学期には、3カ月間にわたり、各学生が興味や進路志望をもとに選択した診療科や分野で4週間ずつ学ぶ実習です。選抜された学生には、この期間等を利用して海外で実習する機会も用意しています。

6年次2学期には、このコースの仕上げとして、卒業後に役立つ実践的能力を身につける目的で、臨床病理学の講義や多職種連携・シミュレーション実習を開講します。6年次の2月には医師国家試験があります。

5年次からは、将来の基礎医学研究者や研究医を目指す学生のためにMD-PhDコースも用意しています。

学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー）

目的

(1) 医学部医学科では「北海道大学アセスメント・ポリシー」に基づき、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）で示された教育目標への到達度を高めるために教学アセスメントを実施する。

実施体制

- (2) 医学部医学科の教学アセスメント実施責任者は、学部長とする。
- (3) 医学部医学科の教学アセスメントは、医学科教務委員会において実施する。

実施および分析

- (4) 医学部医学科の教学アセスメントは、別に定めるアセスメント・チェックリストにより実施する。
- (5) 評価結果を参考とした教育改革の内容は、積極的に公表する。
- (6) 教学データの取り扱いについては、本学の関係規程等を遵守し、個人情報等の保護につとめる。